

いのちを見つめる集い

9/13(木)

第266回



講師：土山祐之 師 浄土真宗本願寺派善教寺 衆徒

1988年生まれ。静岡県出身。早稲田大学大学院文学研究科、日本中世史専攻。座学だけでなく、全国各地にて現地調査を実施している。

災害大国日本。毎年のように、地震や台風、火山や大雨といった自然災害が日本を襲い続けていますが、それは昔も同じです。先人たちはどのように災害を乗り越えてきたのでしょうか。歴史史料を紐解きながら、先人たちの行動に災害との向き合い方のヒントを探っていきます。

10/11(木)

第267回



講師：酒井輝男 氏 ジャーナリスト／元朝日新聞記者

1951年生まれ。横浜市出身。中央大学法学部卒。76年以降、名古屋、東京本社管内で主に社会部系列に所属したほか、高校野球の運営、小中学生向け新聞の編集などにも携わる。

かつてのメディア、特に新聞業界はかなりの「乱暴者」でした。ブラック企業でした。でも、今では働き方改革、多様性を前面にうちだしています。そして「21世紀の衰退産業」と言われています。その変化を「命」をキーワードに考えてみたいと思います。

11/8(木)

第268回



講師：的場徳雅 師 日蓮宗妙善寺 住職／芸名 おにぎり亭馬鹿爆発

立正大学在学中は、落語研究部で落語の研鑽に勤しむ。大学卒業後、僧侶の資格を取得するも、なぜか3年間お笑い芸人のプロとして活動。師僧の病気のため、夢を断念。

落語「堀之内」「甲府い」ではお参りの様子、「寿限無」「転失気」では僧侶が登場し、江戸時代の庶民とお寺・僧侶・仏教の関わり方が随所に溢れています。そこには、私たちが失ってしまった「生活の拠り所」としてのお寺・僧侶・仏教を再発見するヒントが隠されているのです。

12/13(木)

第269回



講師：下村達郎 師 浄土宗香念寺 住職

1982年生まれ。東京大学医学部健康科学看護学科卒、2007年に香念寺住職に就任。2ヶ月に一度「介護者の心のやすらぎカフェ」を開催し、介護者同士が悩みを語る場を提供している。

介護にあたる方は、家族など被介護者との関係性に閉ざされ、社会から孤立しているように感じてしまいがちです。「誰にも知ってもらえない」という辛い気持ちを独りで抱え込まず、他者との繋がりを感じるきっかけを持ってもらえるよう、定期的に集いの場を設けています。

大龍寺へのご案内

- 東京メトロ東西線「早稲田駅」②番出口より「夏目坂通り」を道なりに上る。(徒歩約7分)
- 都営地下鉄大江戸線「若松河田駅」若松口より左方「大久保通り」へ向かい「若松町交差点」から「夏目坂通り」を下る。(徒歩約7分)

仏教情報センターは、精神のよりどころとしての仏教を現代社会に生かすことを目的に、1983年(昭和58年)、首都圏在住の伝統仏教9宗派有志僧侶によって設立されました。現在150余名の僧侶がボランティアで参加し、『仏教テレフォン相談』を中心に活動しています。

